

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第115回

(平成28年10～12月期)

平成29年2月

桐生商工会議所

桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成28年12月1日
3. 調査期間 平成28年10～12月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数137企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数17企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数65企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数30企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数25企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

.....
D Iとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このD Iの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

.....
このD Iは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

.....
D Iについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。
.....

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-29**。前期（-38）比は+9ポイントであった。また前年同期（-27）比では-2であった。

業種別では、**建設業-18**（前期比-3、前年同期比+6）、**商業・サービス業-50**（前期比-2、前年同期比-16）、**機械金属製造業+4**（前期比+21、前年同期比+21）、**繊維製造業-24**（前期比+24、前年同期比-3）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-36**。前期（-33）比は-3ポイント、前年同期（-28）では-8ポイントであった。

業種別では、**建設業-41**（前期比-5、前年同期比-17）、**商業・サービス業-49**（前期比-5、前年同期比-13）、**機械金属製造業-11**（前期比+2、前年同期比+6）、**繊維製造業-24**（前期比+28、前年同期比+1）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-32**。前期（-31）比では-1ポイント、前年同期（-31）比でも-1ポイントであった。

業種別では**建設業-35ポイント**（前期比-4、前年同期比-6）、**商業・サービス業-48ポイント**（前期比-16、前年同期比-14）、**機械金属製造業+5ポイント**（前期比+13、前年同期比+22）、**繊維製造業-26ポイント**（前期比+9、前年同期比+12）となっている。

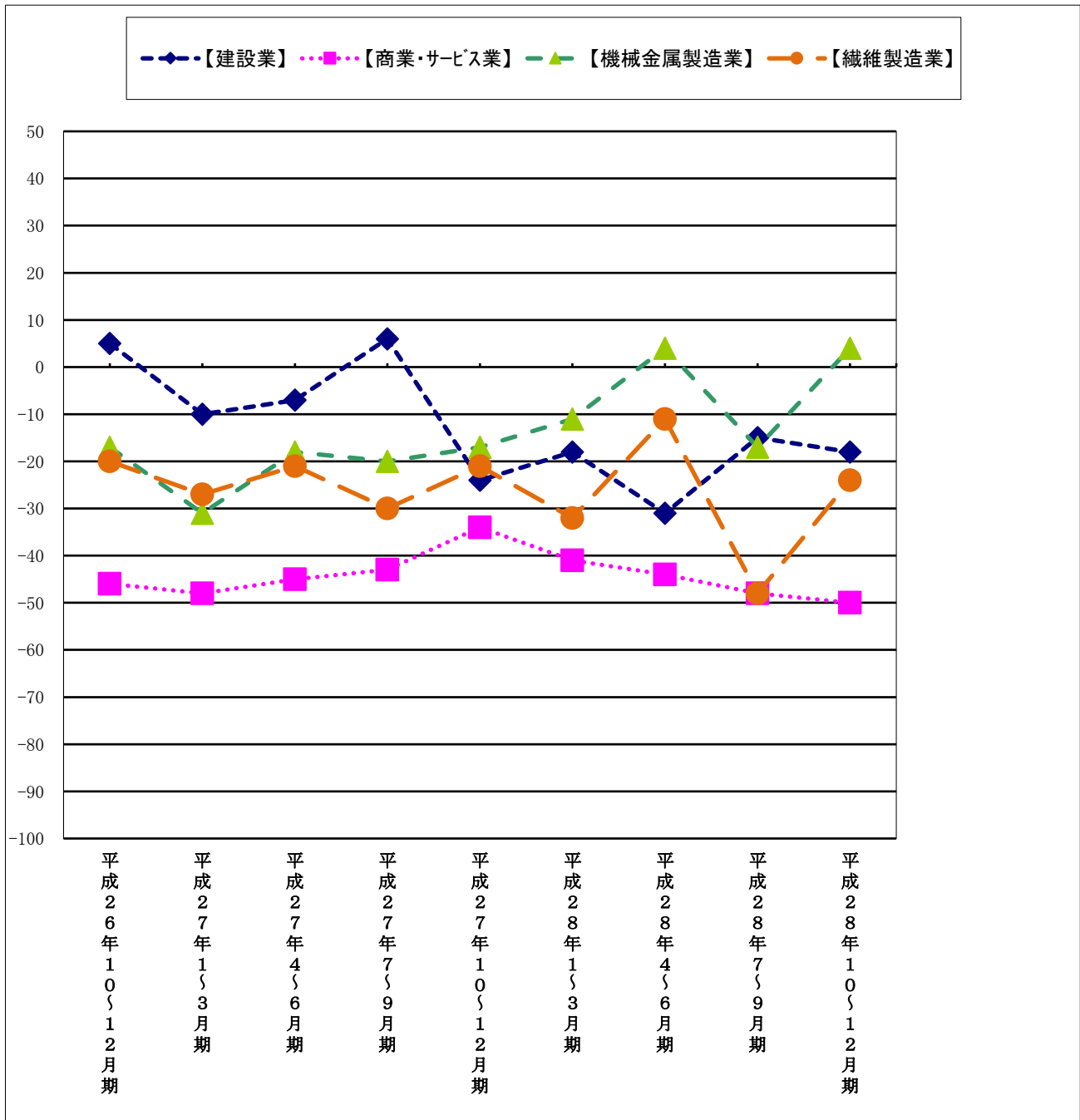
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「従業員の確保難」（17%）「民間需要の停滞」（15%）、**商業・サービス業**では「需要の停滞」（18%）「消費者ニーズの変化への対応」（14%）、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（20%）「需要の停滞」（15%）、**繊維製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（22%）「需要の停滞」（19%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成26年10～12月期	5	-46	-17	-20
平成27年1～3月期	-10	-48	-31	-27
平成27年4～6月期	-7	-45	-18	-21
平成27年7～9月期	6	-43	-20	-30
平成27年10～12月期	-24	-34	-17	-21
平成28年1～3月期	-18	-41	-11	-32
平成28年4～6月期	-31	-44	4	-11
平成28年7～9月期	-15	-48	-17	-48
平成28年10～12月期	-18	-50	4	-24

[平成26年10～12月期] から [平成28年10～12月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-18**。前期比は-3、前年同期比では+6であった。
業種別では**建築・大工業 [-71]、土木業 [±0]、電気工事業 [+50]、その他 [±0]**であった。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-35**。前期比-4、前年同期比では-6ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-50**。前期比は-2、前年同期比では-16ポイントであった。
業種別では、**卸売業 [-50]、小売業 [-48]、飲食業 [-13]、サービス業では [-73]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-48**。前期比-16、前年同期比では-14ポイントであった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは+4**。前期比では+21、前年同期比では+21ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業 [±0]、金属製品業 [+14]、一般機械器具業 [±0]、輸送用機械器具業 [±0]、精密機械器具業 [±0]、プラスチック製造業 [+50]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは+5**。前期比+13、前年同期比+22ポイントとなった。

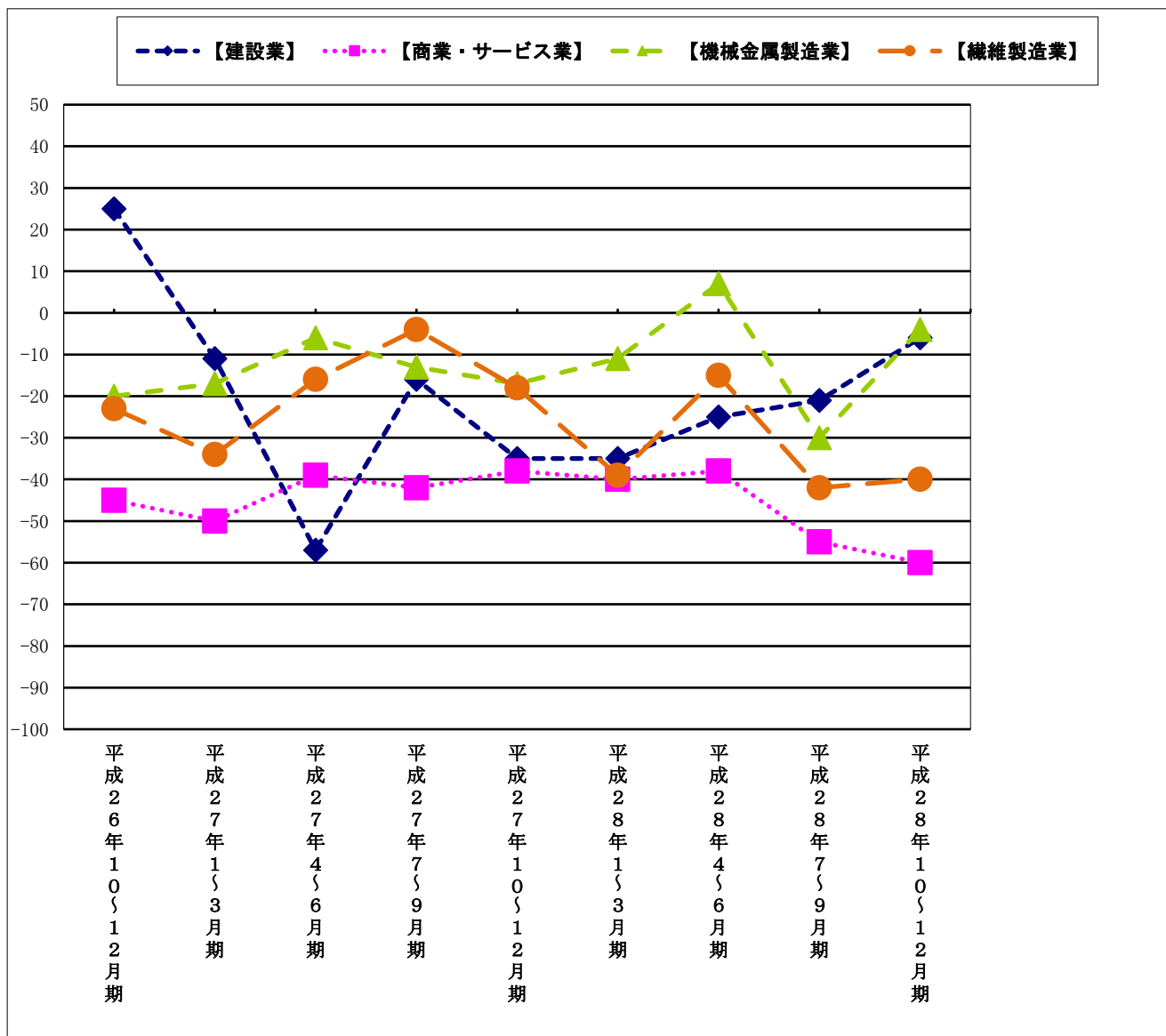
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-24**。前期比では+24、前年同期比では-3ポイントであった。
業種別では、**燃糸業 [±0]、織物業 [-10]、染色整理業 [±0]、ニット・メリヤス業 [-67]、縫製業 [-50]、刺繍業 [-25]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-26**。前期比+9、前年同期比では+12ポイントであった。

売上額（完成工事額）DIの推移

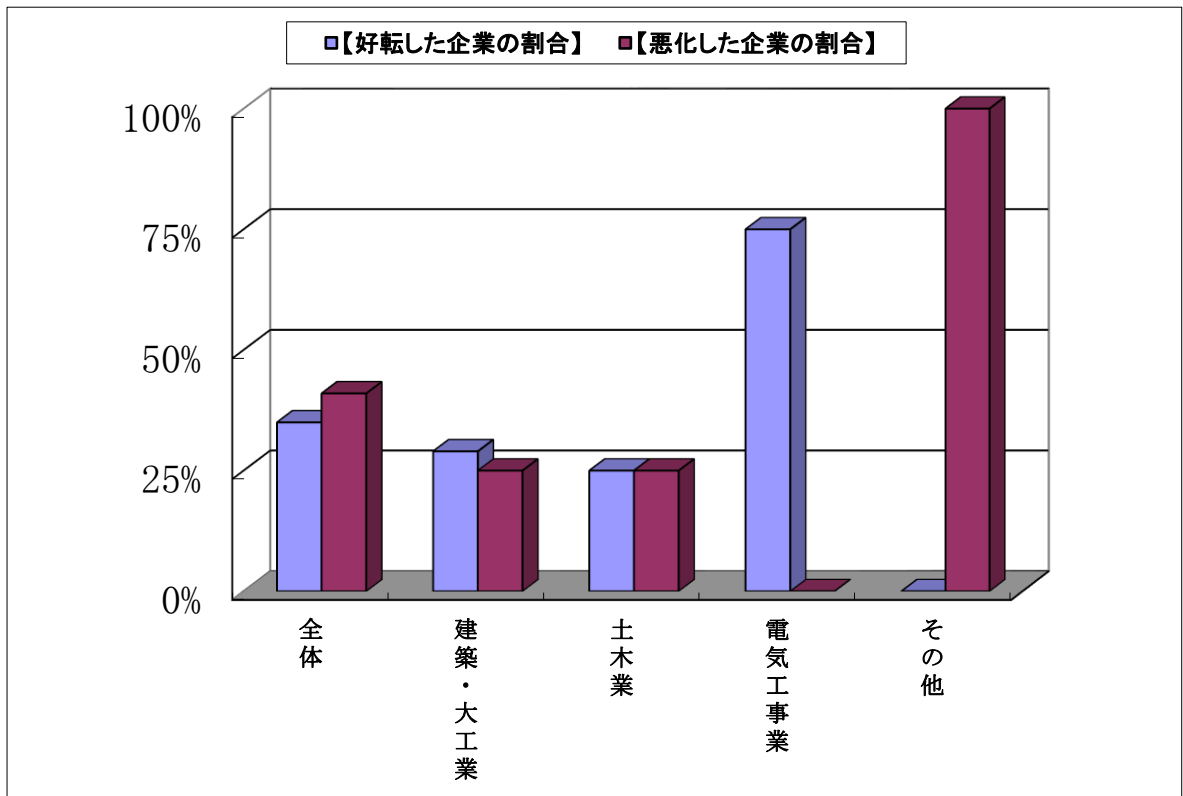
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成26年10～12月期	25	-45	-20	-23
平成27年1～3月期	-11	-50	-17	-34
平成27年4～6月期	-57	-39	-6	-16
平成27年7～9月期	-16	-42	-13	-4
平成27年10～12月期	-35	-38	-17	-18
平成28年1～3月期	-35	-40	-11	-39
平成28年4～6月期	-25	-38	7	-15
平成28年7～9月期	-21	-55	-30	-42
平成28年10～12月期	-6	-60	-4	-40

[平成26年10～12月期] から [平成28年10～12月期]

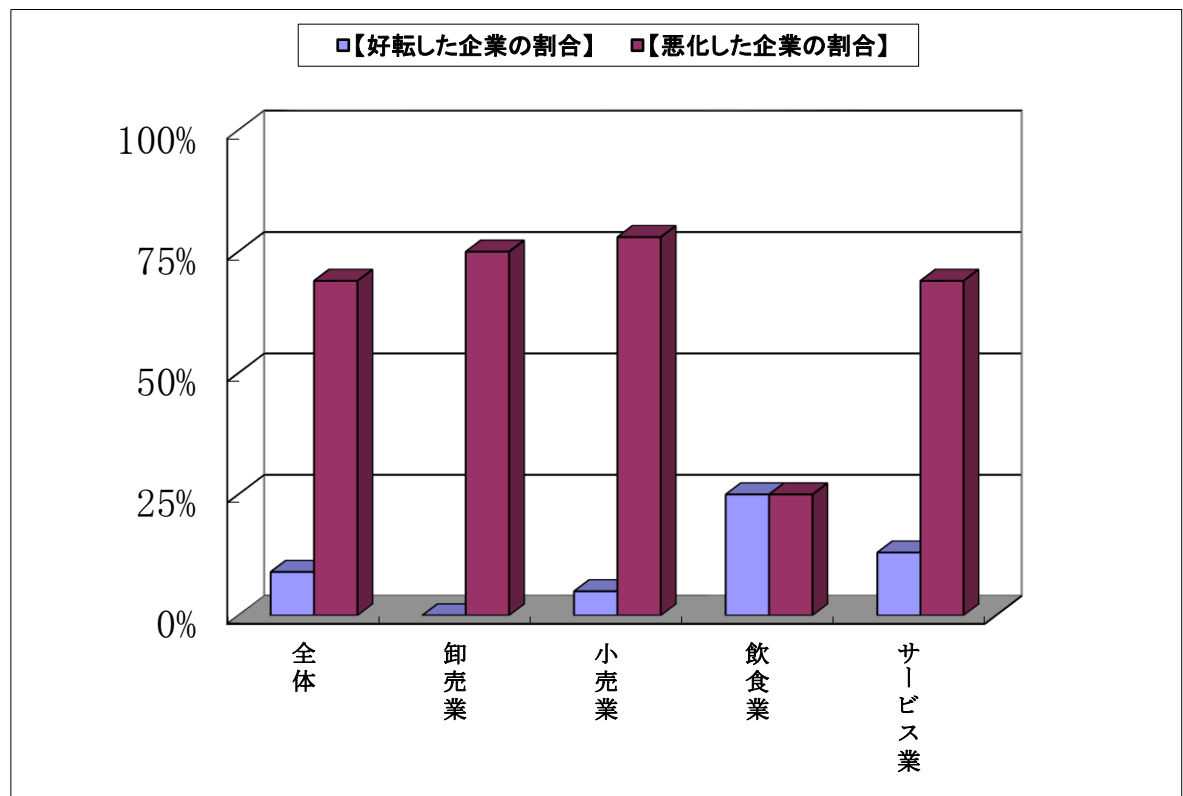


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

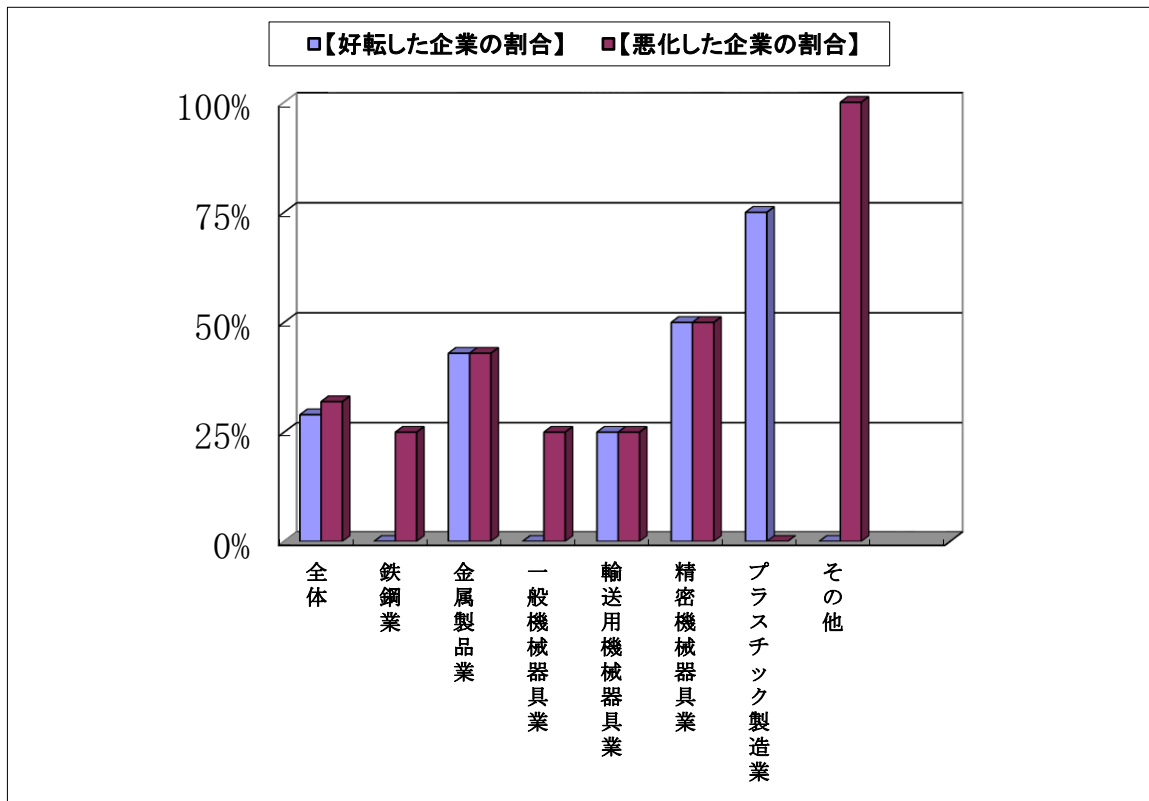
【建設業】



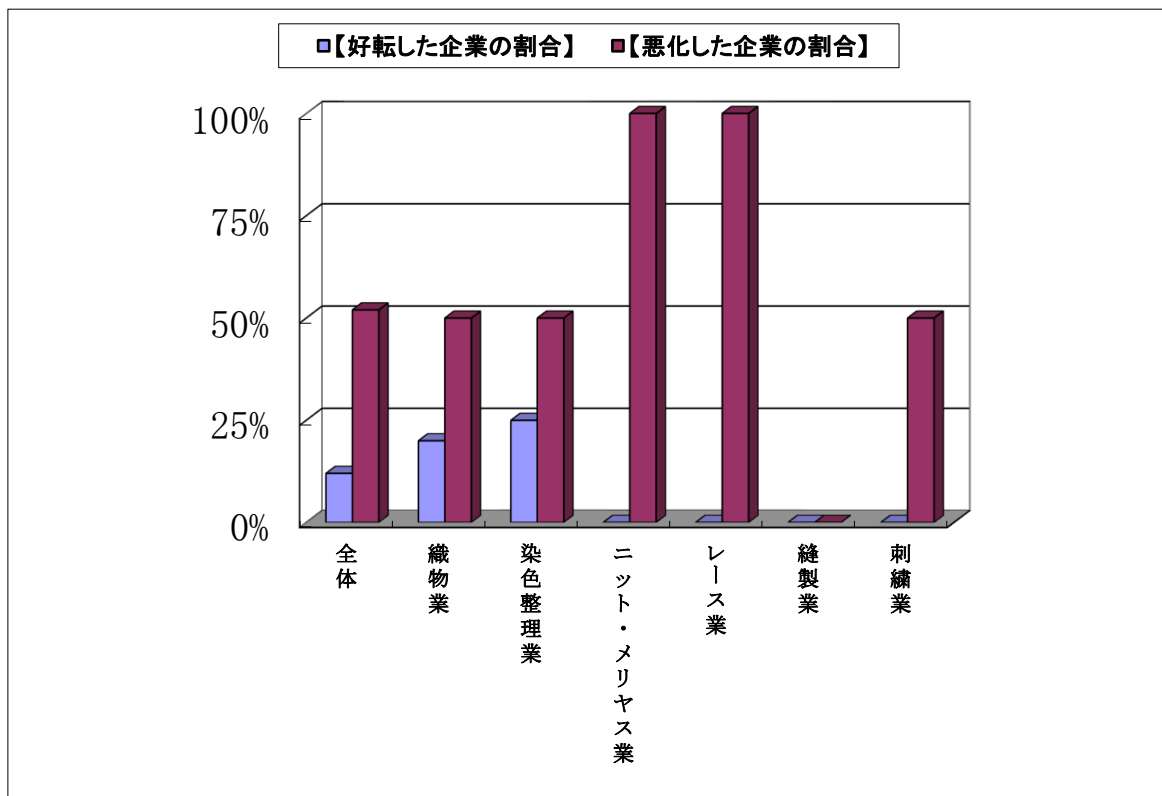
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



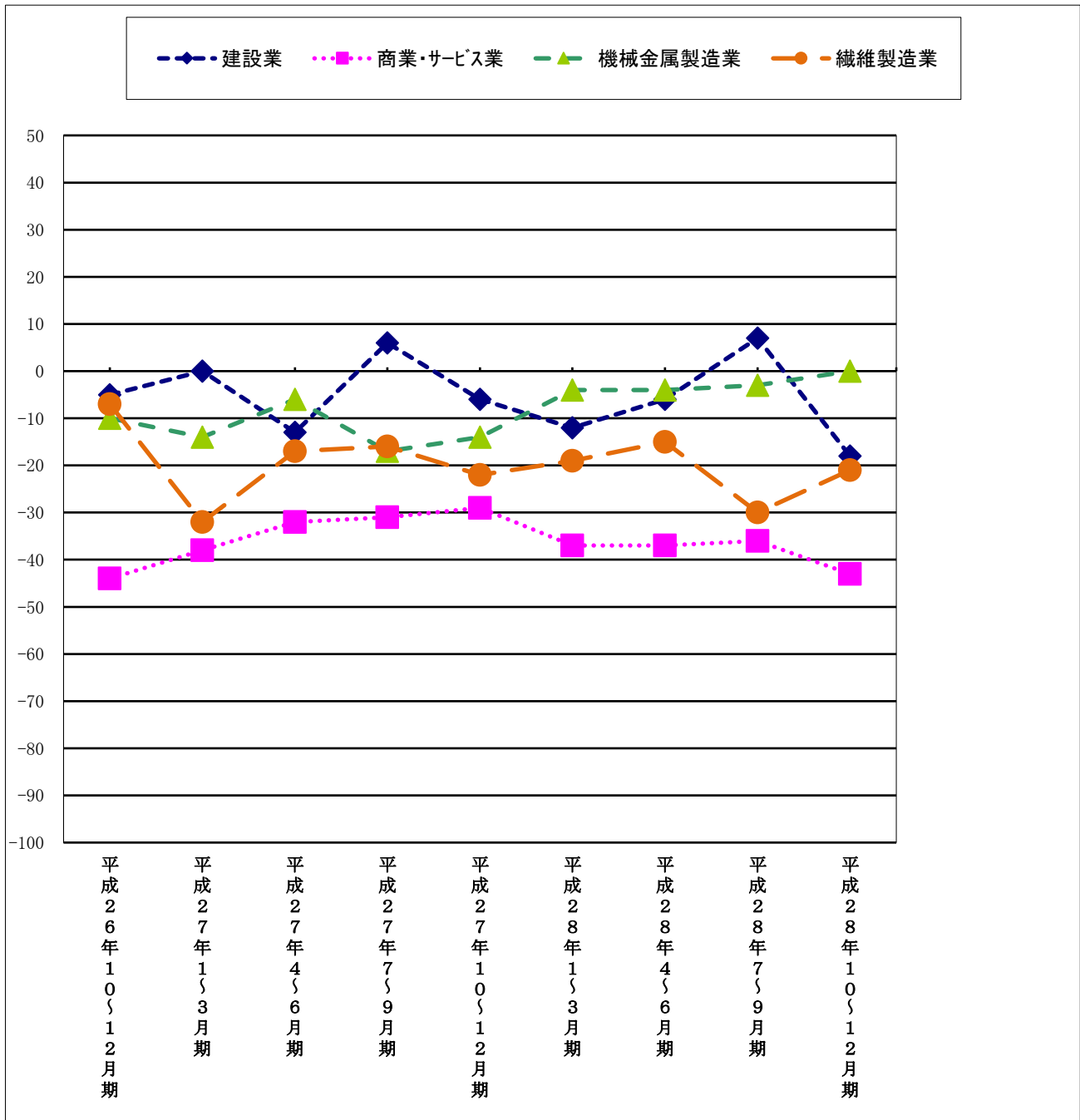
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成26年10～12月期	-5	-44	-10	-7
平成27年1～3月期	±0	-38	-14	-32
平成27年4～6月期	-13	-32	-6	-17
平成27年7～9月期	6	-31	-17	-16
平成27年10～12月期	-6	-29	-14	-22
平成28年1～3月期	-12	-37	-4	-19
平成28年4～6月期	-6	-37	-4	-15
平成28年7～9月期	7	-36	-3	-30
平成28年10～12月期	-18	-43	0	-21

[平成26年10～12月期] から [平成28年10～12月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)	
建設業	従業員の確保難 17.8	民間需要の停滞 15.6	官公需要の停滞 11.1	請負単価の低下・ 上昇難 11.1	下請業者の確保難 8.9	熟練技術者の 確保難 8.9
前期	2位 15.8	3位 13.2	3位 13.2	1位 18.4	5位 7.9	6位 5.3
前年同期	2位 13.0	1位 17.4	2位 13.0	2位 13.0	6位 8.7	5位 10.9
商業・サービス業	需要の停滞 18.8	消費者ニーズの 変化への対応 14.5	購買力の他地域 への流出 10.9	販売単価の低下・ 上昇難 7.0	従業員の確保難 6.7	
前期	1位 17.9	2位 15.2	3位 12.5	6位 4.9	8位 4.3	
前年同期	1位 18.5	2位 13.0	3位 10.9	4位 7.6	7位 6.0	
機械金属製造業	製品単価の低下・ 上昇難 20.3	需要の停滞 15.9	生産設備の不足・ 老朽化 14.5	従業員の確保難 14.5	製品ニーズの 変化への対応 8.7	
前期	1位 16.5	3位 12.7	2位 13.9	6位 7.6	4位 11.4	
前年同期	1位 17.1	2位 15.8	7位 6.6	7位 6.6	3位 13.2	
繊維工業製造業	製品単価の低下・ 上昇難 22.2	需要の停滞 19.4	生産設備の不足・ 老朽化 11.1	製品ニーズの 変化への対応 11.1	原材料価格の上昇 5.6	原材料費・人件費 以外の経費の増加 5.6
前期	1位 22.7	1位 22.7	3位 12.1	4位 9.1	7位 4.5	0.0
前年同期	2位 19.5	1位 23.4	6位 6.5	3位 11.7	4位 9.1	

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成26年10～12月期	20	-11	8	7
平成27年1～3月期	5	-2	15	±0
平成27年4～6月期	±0	-3	-6	-17
平成27年7～9月期	12	-8	14	-8
平成27年10～12月期	6	-10	7	-8
平成28年1月～3月期	±0	-13	±0	-8
平成28年4月～6月期	±0	-6	-4	12
平成28年7月～9月期	-21	-5	-7	-5
平成28年10月～12月期	-24	-11	-8	-17

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【商業・サービス業】

- ・年齢層が高い方の来店は多いが、中・若年層の来店が少ない。（小売業）
- ・お客様の高年齢化による客数の減少。（小売業）
- ・官の発注減、民の景気減。（サービス業）
- ・売上の減少に伴い、分岐点売上の確保が難しく、資金繰りが厳しく葬儀一式単価の競争及び家族葬の増加等により、一件当たりの単価が下がり減収・減益傾向である。（サービス業）
- ・とにかく人材不足。有能な人材を確保することが存続のカギとなっている。（サービス業）
- ・店主、お客様の高齢化。（小売業）
- ・街中心部への顧客吸引力が増々落ち込んでいる。需要の停滞感もあり、厳しい状況は変わらない。景況感は少し好転したが、その度合いは11、12月の寒さが強かったため。（小売業）
- ・長期不況により購買力の低下が続いている。景気対策が急務である。（小売業）
- ・今年は昨年以上に消費の低下を感じる。当然高齢化や地域の活性化のなさが関係していると考える。桐生の消費レベルが他地区に比べ格段に低い事を痛感している。（サービス業）
- ・お客が年をとり、老人ホームに入ったり亡くなったりで、客数の減少が続いている。（小売業）

【機械金属製造業】

- ・為替の変動。（一般機械器具製造業）
- ・受注変動が大きい。（輸送用機械器具製造業）
- ・新製品の開発に力を注いでおり、来期に期待している。（その他）

【建設業】

- ・一時的に工事量は増えているが、人と下請者の確保難が悪化している。（土木業）
- ・大手ゼネコンの進出。（その他）